

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2015年11月1日 146号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## 中田所長、大和田氏、 吉本氏が帰国報告



パンタナール開発プロジェクトの報告と展望を語る中田実レダ基地所長（10月11日、定例集会にて、大山街道ふるさと館）

### 人生最後の一秒まで一緒に頑張ろう！

十月十一日、大山街道ふるさと館において行われた、当会の定例集会で、今月レダ基地から帰国した中田所長、大和田氏、吉本氏がそれぞれ活動報告をしました。

中田所長は「パラグアイ人も行かないような、『見捨てられた地』に福地を建設し、地球環境問題と世界人類の食糧問題に解決策を提示する理念と目標が、この十六年の地道な活動を通して実体化してきました。開拓の初期には私たちの活動を理解できなかった人々も、今日、私たちを見る目が百八十度変わりました。特にパラグアイに理想郷の実現を夢見て入植した日系やメノー教団の人々は、レダにおける活動の真価をよく分かってくれるようです」と語りました。そして日系人で企画作成の専門家の協力によって作られた「レダ総合開発計画(試案)」を紹介しました。これはプレゼンテーション資料として優れた体裁を備えていて、プロジェクト推進のための教材として活用できるものです。さらに内外の智慧を結集することで、私たちの目指す福地実現理想がいつそう具現化し、多くの人々と共有できるようになるでしょう。

所長は「日本は、優しさ、繊細な感性、勤勉、正直、創意、奉仕の精神など、素晴らしい資質を備えています。難問に苦しむ世界を救うことができる国です。逆に日本が破綻したら、世界人類は救われません。」「皆さん、夢を持ってください。レダはこれからです。限られた人生を、最後の一秒まで一緒にがんばりましょう」と熱い心を語りました。



レダ基地での活動を報告をする大和田氏

大和田氏は、豚ランドの老朽車両が過酷な状態で走っていることを取り上げ、車両の為の支援を訴えました。また吉本氏は滞在中に撮影してきた多くの写真を用い、最新の状況を報告しました。



¡Viva Leda!



授乳するユーゲン君は、カピバラのパパ。



パクーの養殖池に石灰を撒いて消毒する。



パクーをたくさん釣った北中氏（右）。



養殖池でパクーの追い込み作業を手伝う。



大物釣りに挑戦する吉本氏。



あなたといつまでもいたいワン。



滝川君が釣った、念願の初ドラド。



豚ランドは可愛い仔豚がいっぱい。



仲睦まじい大和田夫妻。（レダ基地大食堂）



パラグアイ川で釣ったパクーを手を。

★大和田法生（のりお）氏にインタビューしました。

Q レダでは何を担当していますか？

A ①レダで働く労働者と日本人メンバーに人数分の肉（一人一食一〇〇g×三食分）を供給、米やパスタも一人一食一〇〇g×三食分）を供給、米やパスタも現地の女性労働者を監督、必要な指示を与える。③夕方、食塩、醤油、食用油、乾物や台所用品等食当の要望に応じて提供。④施設の解錠、施錠、及び朝晩のゴミブリ退治。⑤労働者が使用する際の工具類の貸し出し、返却のチェック。⑥来客用のベッドメイキング。

Q レダで最も苦心したことは何ですか？

A 同じ作業と向き合い、毎日いかに新鮮な気持ちで取り組めるかということです。

Q 将来の抱負を語ってください。

A 自分に与えられた仕事をいかに喜んで行えるようになるか、ということです。

Q 日本滞在中に、どんなことをしたいですか？

A 時間にしばられない環境で、いかに能率良く行えるか、そのために、プラスとなる材料を入手すること。

Q 日本の支援者の方々に一言何でもどうぞ。

A 日頃の関心と応援、ご支援に感謝すると共にこれからもより一層関心を寄せて頂き、レダで歩むメンバーと心情一体化していけたらと思います。





## ★シロキツツキ

白を基調としたキツツキは、パンタナールに来て初めて見た。庭先にもしばしばやって来て、アセロラの完熟果を啄ばんだりする。キツツキらしく垂直の幹にも止まることが出来る。他のキツツキのようには、ドラミング調で木をつつくのは、まだ見たことがない。

赤や黒を基調としたキツツキは、人家から離れたところでドラミングをしているのが聞こえる。彼らが庭先に来ることは珍しいが、人間が危険でないと知れば少しずつ接近して来るかもしれない。野生の獣や鳥は、一度でも驚かすと、信頼の回復には長い年月を要するだろう。

野鳥が人家の近くにやって来るのは、どんな場合だろうか？パンタナールで今まで見てきた限りでは、次のケースが考えられる。いずれも私の仮説である。

①人間が大して危険でないことを学んだ(タカ、トキ) ②食物の誘引力が強い



## パンタナール体験者インタビュー (第1回)

## 養殖分野で貢献したい!



奥迫孝顕 第13回国際協力青年奉仕隊員 鮮文大学校水産生命医学科 3年

**Q.** レダに行きたいと思った理由は何ですか？

**A.** レダに行けば生き体験が出来ると思ったからです。レダで養殖したパクーの写真を文先生がご覧になり、「私がやりたかったことだ!」と仰ってサインされたの聞き、養殖で貢献していきたい私に

とって、レダしかないと思確信しました。

**Q.** レダに行って、一番印象的だったことは何ですか？

**A.** 自分の持っている知識や経験を人々のために活かすことができればと、常日頃から思っていました。これが天が私に与えたその機会であると感じたからです。

**Q.** レダで、心に残る出会いがありましたか？

**A.** アクアポニクスという養殖方法に出会えたこと。あと、もうひとつは、理想の福地、世界平和地球村をゼロから建設するという、とんでもなく面白そうなビジョンがあったことです。

**Q.** レダに行って、意外に思ったことはありますか？

**A.** 専門知識や技術を何にも持っていない素人集団の先生方が、立派な建物を建て、パクーを完全養殖させているのかなり驚きました。そして、養殖分野では、絶対に先生方に負けたくないと思いました。その当時、1年の自分には、養殖分野でレダに行っても、貢献できることが何もないことに、かなりショックを受けたけど、おかげで生半可な知識や技術じゃ必要とされないことを思い知ることができました。

**Q.** レダから日本に帰って、思ったことは何ですか？

**A.** 自分は何を学び、養殖の中でもどんな専門分野の道に行くのか?を必死に考え悶え続けながら、あと少しで、自分の専門分野が見えてきそうなところだ。

れてしまう。シロキツツキたちは、スズメバチの大切な幼虫を次から次へとほじり出して食べて。怒ったスズメバチたちが逆襲するが、シロ



（コウカンチョウ、カラカラ）③気が強い（タイルンチョウ、タゲリ）④人家の近くがより安全だと知っている（スズメ、ツバメ）⑤その他（怪我、病気、ほかの場合）  
シロキツツキは、③気が強い部類のようだ。ある日、三羽のシロキツツキが、軒下のスズメバチの巣を襲撃した。巣はサッカーボール大、スズメバチは子育ての真っ最中だった。ハチの巣は風雨には耐えるものの、鳥のくちばしにかかれば簡単に壊れてしまう。シロキツツキたちは、スズメバチの大切な幼虫を次から次へとほじり出して食べて。怒ったスズメバチたちが逆襲するが、シロ

キツツキたちは全く平気な様子。遠慮なく巣を壊しては、ハチの子をむさぼり続ける。  
当地にはスズメバチ、ミツバチ、ほか様々なハチ類が棲んでいるが、先住民ですら毒蛇やアリと並んで最も恐れるのがハチの巣である。藪や茂みの中でうっかり触れでもしたら、悲惨な目にあう。私はこのシロキツツキたちの予期せぬ行動を啞然として眺めていた。とうとうスズメバチの巣は全壊し、その破片だけが無残に地上に散らばっているだけとなった。シロキツツキたちは去って行った。スズメバチたちは悔しように巣の残骸の周りを飛んでいたが、やがてどこかに行ってしまった。  
自然界には天敵というものがある。人間たちが恐れるスズメバチだが、その天敵がちゃんといたのだ。ところで人間の天敵は何なのだろう。ある長老は「自分自身だ」と答えた。  
(キツツキ目 キツツキ科 シロキツツキ) (小田記)

## 第十三回環境問題研究会を開催



十月十一日、午後二時より、大山街道ふるさと館において、第十三回環境問題学習会を開催しました。講師は中世基督教哲学者の八木雄二先生。テーマは「地球に自然を返すために自然環境に感謝の心で接するボランティアについて」。ご自身が理事長を務める「NPO法人東京港グリーンボランティア」による「野鳥公園」の活動などの実体験に基き、自然の営みと人間の関わりについて、極めて根源的な内容を、フランクに、かつ明快な論理で説明されました。参加者は約五十名。講義の後は質疑応答、全員での記念撮影、著書の紹介、サイン会等があり、午後四時過ぎ、大きな拍手の中に閉会しました。



八木雄二先生



熱心に聴き入る参加者たち (10月11日)

**聴講メモ**…人間が自然界に手を出すと必ず自然を破壊するというヨーロッパ的な考え方は、正しいとは言えない。自然には、人間の手で手伝えることがある。それは、人間の生活圏から排除された動物たち(猿、鹿、猪ほか)がやってきてくれたことを人間が真似して為すことである。それは、繁り過ぎた枝葉や草を、植物が程よく生長し、繁殖するように切ったり刈ったりすること。動物も植物も食べることで食べられることの両方が必要で、それを為すための智慧が備わっている。人が自然を手伝うには、全身全霊をもって生命総体の智慧を学ぶことが必要。人間は生命をいただいで生きていくが、生命そのものに代価を払うことは考えもしない。生命をいただくことに涙するほどの感謝の心を持って、食べ物をかみ締め、そして自然に恩返しをすべきである。(小田記)

## 第九回パンタナール一日特別研修会ご案内

第九回パンタナール一日特別研修会を、左記の通り開催いたします。パンタナール地域における人間と動植物の理想郷を目指す福地開発プロジェクト、その活動を通して得られた知識と経験を共有し、開拓精神を相続しましょう。

日時：二〇一五年十一月二十一日(土)

十時三十分～十六時三十分(十時より受付)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

国際交流棟(東京都渋谷区代々木神園町三二)

小田急線参宮橋駅から徒歩七分。バス利用の場合は、渋谷駅西口(14番)または新宿駅西口(16番)より代々木五丁目下車、目の前が正門。

参加費：二〇〇〇円(昼食を含む) 当日受付にてお支払いください。

**プログラム(予定)**

★提唱者の思想と私たち・レダ開拓史・飯

野貞夫(当会理事)

★ここまで来た! 地球環境問題・高津啓

洋(地球の緑を守る

会代表理事)

★パラグアイ・レダ

における理想郷建設・

柴沼邦彦(当会理事)

★現地活動体験者の

報告(青年)

参加の申し込みは、

①氏名・フリガナ②年齢③性別④住所⑤電話番号⑥メールアドレス⑦紹介者を明記の上、

FAX：〇四四八二九二八二〇、または

メール：office@asd-nsa.comへお願いします。

申込切：十一月十八日(水)



会場となる、オリンピック記念青少年総合センター

## 会員種別

◆会員一口1000円/月 ※口数は申込者が申告

◆特別会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

◆法人会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名：シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。

また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.docx>

## 一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

メールアドレスが変わっております!

(新) Eメール: office@asd-nsa.com

(新) ホームページ: <http://asd-nsa.com>